

本文

Q-1. (1) 犬に「郷愁」などという名前をスペイン人はつけるものなのですか？

A-1. 犬の名前は実に様々です。意味のないイメージだけの名前もありますが、このように深い意味を込めた名前もあります。

Q-2. (2) どうして「する」という hacer の 3 人称で「...前に」という表現になるのだろうか？ 不思議だ。

A-2. 時が経過したことを示すのに中世(12世紀以後)では haber を使っていました。たとえば, ha mucho tiempo で「ずいぶん昔に」という意味になります。Haber の意味は「存在する」ですから, 理解しやすいと思います。ところが近代(16 世紀以降)になって, hacer の非人称的用法(主語がない文)として, hace mucho tiempo という形が使われるようになりました。語順も mucho tiempo を目的語として hace の後に置きます。この変化には, hace buen tiempo というような「天候」の表現や haber と hacer の語形の類似が関係していると思います。

Q-3. (2) hace で辞書を引いても辞書になかったのですが, なぜですか？

A-3. これは hacer という動詞の現在の活用形だからです。hace が独立して前置詞になってしまえば, 独立形として辞書に載せることができますが, 実は, hace は過去形(hacía)でも未来(hará)でも使われるのでそうはいきません。あくまで動詞の活用形なのですが, それがあたかも時を表す前置詞のように使われているのだと理解してください。

Q-4. (2) mi familia y yo というように, 自分(yo)を後にするという文化がヨーロッパでは当たり前になっているというのは非常に不思議だ。日本語だと「私たち家族は」などという表現にするのも興味深い。

A-4. この文章では単に mi familia とすることも可能ですが, そうすると「私の家族」が客観的に独立して使われているような感じになります。そこで, 「私」という主観性をとくに強調するときには, (2)のような文にするとよいでしょう。また, お気づきのように, 「...と私」という順番が一般的で, 「私と...」とすると子供が使う表現になってしまい, 笑われることがあります。

Q-5. (2) なぜ ser の線過去の era が使われているのですか？ ser は永続するもの(種類や性質など)を表すと教わったのですが...

A-5. ser は永続的な性質, estar は一時的な状態を表すというのは, 主にそのあとに形容詞がくるときです。

Es callado. (彼はおとなしい人です, 口数の少ない人です。)

Está callado. (彼はおとなしい, おとなしくしている。)

というふうになります。

そのあとに名詞がくるときは, 主語がどういう種類のもの(身分, 職業など)とイコールであるかを示していると考え, ser を使います。Soy estudiante.と使い, *Estoy estudiante.とは言いません。学生という状態にある, とは考えずに, 主語(yo)が学生という身分とイコールであると言っているからです。ここの Cuando yo era niño...も, 子供という身分(という日本語でよいのかどうか分かりませんが)であったということで, ser を使います。Es niño.(彼は子供です。)とは言いますが, *Está niño.という言い方はしません。Es mi jefe.(彼は私の上

司です。) Es médico.(彼は医者です。)などと同じだと考えればよいと思います。

Q-6. (3) なぜ「a」が必要なかわかりません。「人」を直接目的語にとるときだけではないのでしょうか？

A-6. この「a」は「人」を直接目的語にとるときのものではありません。「場所」を示す「a」です。このように前置詞「a」には他にも多くの用法があり、たとえば、間接目的語や「時」などにも使われます。詳しくは辞書を参考にしてください。

Q-7. (4) yo iba a pescar con el abuelo とありますが、どうしてこの場合、人を示す a が付いて con al abuelo とならないのですか？

A-7. 動詞の直接目的語(人の場合)や間接目的語には a がつきます。前置詞の目的語ではそのようなことは起こりません。

Q-8. (3) 2 課の playa と 3 課の orilla del mar はどんな違いがあるのですか？

A-8. playa は「砂浜のある海岸」という意味で、「浜、ビーチ、海水浴場」などという訳になります。orilla del mar はさらに広く「海岸」「沿岸部」という意味で、一般に海に接する陸地の部分を指します。

ちなみに日本語の「磯(いそ)」に一語で対応する言葉は英独仏西いずれにもないようです。和西辞典には costa rocosa(岩だらけの海岸)などという苦しい訳が載っています。

Q-9. (7) Lección 1 の esposa と Lección 3 の mujer はどう違うのですか？

A-9. どちらも「妻」を表します。ラテンアメリカには妻の意味で mujer を使わない地域もあります。

Q-10. (8) (...) yo los miraba con curiosidad. この文の los は「人」を示すのになぜ前置詞の a がつかないのですか？

A-10. 前置詞 a は直接目的語が「人」を示す名詞のときにつきます。目的語が代名詞(弱勢代名詞)のときは a はつけません(ただし a mí, a él のように、前置詞の後の代名詞(強勢代名詞)には a がつきます)。

Q-11. (8) mirar と ver の違いは？

A-11. mirar は「(注意して)見る」、ver は「見える」という意味です。英語の watch(=mirar) と see(=ver) の区別に似ていますが、ただし「テレビを見る」は ver la televisión と言います。

Q-12. (9) Más tarde と muy tarde の違いは？

A-12. más tarde は「もっと後で、さらに後で」という意味で、muy tarde 「とても遅く」という意味です。どちらも副詞句です。

Q-13. (10)の e は y とどう違うのでしょうか？

A-13. 両者に意味の違いはありません。e は次に i, hi(母音であって、ie や io などの二重母音は除く、yo など除く)で始まる語があるときに使われる形です。スペイン語の y はラテン語の et(et cetera の et)に由来し、中世では語尾の t が脱落して e という形になりました。さらに近代になって i(y)と e が併用されるようになったのですが、i が出現した理由は e + a > i + a というような次の母音が前の母音を閉じさせる傾向が、次の母音がない場合にまで一般化したのではないかと説明されています。とすれば「e+i」の形は、近代以前の「e」の形が次

の母音が i である場合にのみ保持されたものと考えられるでしょう。

Q-14. (10) y が e に変わるように、次の単語の最初の音によって形が変わることは他にありますか？

A-14. 接続詞 o は、o, ho の直前で、u と変化します。「y > e」と似た変化として、pedir, pido, pides, pide, pedimos... というような語根母音変化動詞の活用が挙げられます。ここでは語尾に i (母音であって、ie や io などの二重母音は除く) があるときに、語根が e になります。これは次の語が i (母音であって、ie や io などの二重母音は除く、yo など除く) で始まるときに y が e になるのによく似ています。

Q-15. (10) que の使い方がいまいよく分かりません。

A-15. que には 3 種類の使い方があります。名詞節を作る接続詞 (Creo que... ~ とする), 形容詞節を作る関係代名詞 (英語の which, that, 6 課), そして、比較の対象となる項を示す場合 (英語の than, 8 課) です。アクセント記号がつくと疑問代名詞 (qué) になります。

Q-16. (11) の A la abuela と la は同じ人を指すのですか？

A-16. そうです。このように目的語 (間接目的語でも直接目的語でも) が前に出たときは、もう一度代名詞で指すのが普通です。この場合は前に出た目的語は名詞ですが、「代名詞の重複構文」と言って、A ella la conozco. のように、ひとつの文の中で la と ella という同じ人 (物) を指す代名詞を両方使う場合もあります。代名詞が重複して使われるのはふつう間接目的語に多いのですが、この文のように直接目的語が「人」の場合にも起こることがあります。

Q-17. (14) の andaba と (15) の llamaba の主語は？

A-17. andaba の主語は Nostalgia という名前の犬で、(16) の llamaba の主語は「私」(yo) です。このように、線過去は 1 人称単数と 3 人称単数が同じなので、文脈、状況、常識などで判断することになります。

Q-18. (14) は倒置ですか？

A-18. 確かに主語が後に来ています。このように、新しく登場する物や人 (や犬) は、文の後の方に置きます。

ただし、スペイン語は語順が自由なので、テキストの Conmigo siempre andaba un perro vagabundo. は普通の、ごくだらかな語り口だといっていいと思います。動詞が文末に来るという点ではきわめて語順が窮屈な日本語でいう「倒置 (法)」とはずいぶん違います。

Q-19. (17) nostalgia はなぜ小文字なのですか？

A-19. ここでは固有名詞 (犬の名前) の Nostalgia でもなく、またタイトルでもなく、普通名詞の「郷愁」という意味で使われているからです。

文法

1. 線過去・規則変化

Q-1. 線過去の 1 人称単数形と 3 人称単数形は文脈で判断するしかないのですか？

A-1. その通りです。もし、誤解が生じそうなときは、話し手や書き手は主語を明示するよう

にしています。とくに usted は明示される傾向があります。

Q-2. 線過去の活用形は一人称単数と三人称単数はまったく同じ活用ですが、なぜ同じになったのですか？明らかに不便に思えるので、別の形にするのが自然だと思ったので。

A-2. たしかに紛らわしくて不便ですね。これは、スペイン語の母体であるラテン語ではちゃんと区別されていました。ar 動詞の活用語尾は（ラテン語では are 動詞）、abam, abas, abat, abamus, abatis, abant のように活用していたので、主語がなくても大丈夫でした。ところが、スペイン語になると語末の m と t が消失して、aba, abas, aba, ábamos, abais, aban となったので、その結果、1 人称単数と 3 人称単数は同じ形になりました。（ここで、s は残っているのになぜ語末の m と t がなくなったのかは、子音の音声的特徴によります。スペイン語では n, s, l, r, d, z が語末で比較的安定しています。これらの子音で終わる単語や変化形はすぐ見つかりますね。）このように、言語の歴史を辿ると、コミュニケーションに不便になるにもかかわらず、音声的な条件で一律に変化してしまう事例がいくつもあります。これから勉強する過去未来や接続法現在、接続法過去でも同じです。現在のスペイン語圏の人は不便を感じていないのでしょうか。主語がなくてもほとんどの場合、文脈、状況、常識などで判断できるので問題ないのですが、ときどき誤解が生まれることもあります。そのようなときは、ちゃんと主語をつけておいたほうがよいでしょう。

2 . 線過去 . 不規則変化

Q-3. ser 動詞は過去形まで複雑で混乱しそうです

A-3. 不規則動詞はよく使われる動詞ばかりですから、がんばってください。（後で習う ser の未来形は規則変化です）

3 . 人称代名詞 . 直接目的語と間接目的語

Q-4. usted の直接目的語は lo ですか、それとも la ですか。

A-4. usted が「男性」を指しているならば lo, 「女性」を指しているならば la です。

Q-5. なぜ、間接目的語の le, les が 3 人称の直接目的語の人称代名詞と共に使われるとき、se となるのですか？

A-5. これは文法的な理由からではなく、音の問題です。中世スペイン語の段階で le(s) + lo(s) > ge lo [ジェロ] > ge lo [シエロ] > se lo という音変化が起こりました。結果的に、後で習う再帰代名詞の se と同じ形になったわけです。

この音変化の理由については、複雑なのですが、簡単に言ってしまうと、「ジェ」の音が無声音となったためです。無声音となった理由は、スペイン語の摩擦音が全体として、有声と無声の区別をなくして単純化したためです。この結果、z などの摩擦音も他の言語と異なってスペイン語では無声音だし、v も摩擦音でなくなったし、とにかくすべての摩擦音は無声音だけ (f, s, z, ce, ge, je, etc) になりました。（スペイン語圏の人は「スズキ」と発音するのが難しいのです。）

Q-6. usted を目的語の代名詞で受けるときも 3 人称の lo や le を使うのですか？

A-6. はい。したがって、もし usted が示す相手の人が男性ならば直接目的語は lo に、女性ならば la になります。

Q-7. スペイン語の例文で"Yo siempre le presto el diccionario a mi hermano."という文を習ったのですが、何故間接目的語が"le"と"a mi hermano"で重複しているのですか？

A-7. ちょっとした決まりがあります。まず、目的語の名詞を強調するために動詞の前にもってくるときは、その目的語が直接目的でも間接目的でも必ず人称代名詞を重複して入れます。Los libros los compré yo. 本は私が買った。

A María le compré un libro. マリーアには私は本を一冊買った。

目的語の名詞が動詞の後に来る（普通はこの語順。ご質問の例文も目的語の名詞2つ el diccionario と mi hermano は動詞の後にきてます）ときは、その名詞が間接目的語の場合、人称代名詞を重複して入れることのほうが多いです。入れないと、ビジネスライク、オフィシャル的な感じがすると言われます。

Yo siempre presto el diccionario a mi hermano.

動詞の後に直接目的語が置かれているときは、ご質問にあった文の例(el diccionario)でもわかるように、代名詞は重複させません。

Q-8. 「人称代名詞」という意味がわかりません。

A-8. 「人称 person」とはひとこと言えば話者との関係のことです。話者が話者自身を指すのが1人称、話しかける相手を指すのが2人称、話者とその相手以外のあらゆる人・物を指すのが3人称です。

人称代名詞には、p.12の主語人称代名詞とp.28, p.29の目的語（前置詞の目的語も含む）の人称代名詞があります。これらは人称によって変化して、1人称、2人称、3人称の単数と複数の形があります。代名詞には他に、指示代名詞、疑問代名詞、所有代名詞、関係代名詞などがあります。

Q-9. conmigo や comtigo という形はどうして出来たのですか？ go とは何なのですか？ go が何故付いたのか教えて下さい。

A-9. たしかに、go がなければ con él, con usted のようにわかりやすいのですが、実はこのgoの語源はconと同じなのです。ラテン語でcumという形です。míやtiを強調するためにcon...goという形で前後からはさんだものなのです。

Q-10. 冠詞と目的語の形が似ているのは？

A-10. どちらもラテン語の（「あれ、あの」という意味の）指示詞に由来します。同じ起源を持つので、形がとても似ていたり、同じであったりします。

4. a+「人」を示す直接目的語

Q-11. ¿Conoces a Juan? と Conozco al Sr. López. では、どちらも人物なのにどうしてaとalとの使い分けがなされているのでしょうか？

A-11. Sr.はseñorの略語です。señorは普通名詞なので、定冠詞をつけることになります。文法的な関係はSr. (señor)とLópezが同格になります。一方、Juanは固有名詞なので定冠詞はつけません。また、alはa(前置詞)+el(冠詞)が合成されてできたものなので、女性ならばa+laとなります。cf. Conozco a la Sra.. (señora) López.

Q-12. 男性はa+el=alとなるのが、女性の場合はa+laで、合成されてalaとならずにそのままa laなのですか？

A-12. その通りです。de と a は次に男性単数の定冠詞が続くときは、それぞれ del と al という合成した形になります。女性の定冠詞(la)や複数の定冠詞では合成しません。また、de と a 以外の前置詞では男性でも女性でも定冠詞との間に合成は起こらないので、al と del という形だけ覚えておきましょう。

Q-13. なぜ、a+「人」を示す直接目的語で、a に意味がないのにつけなければいけないのですか？

Q-13. 直接目的語が人間のときに付く無意味な"a"はなぜつくようになったのでしょうか？普通に考えれば、無意味なんだから a がつくなどということは面倒なことで、使っていくにつれ簡単になっていくという（と一般的に考えられている）言語の性質と矛盾しているような気がします。

そこで、なぜ"a"をつけるのかをあてずっぽで予想してみました。

予想1) はじめは全ての目的語に対して"a"が付いていたが、次第に簡略化されるようになり人間のときだけが残った。

予想2) はじめは"a"を付けていなかったが、何らかの不都合が生じる事がわかったから人間のときだけ付けるようになった。

A-12-1. 詳しい言語学的な分析は他の先生にお願いすることとして、私は直感的に気がついたことだけ。ほんとうに[...a]は「無意味」なのか？

たとえば、Jorge busca a Carlos. 《ホルヘはカルロスを探す。》

という文章を考えてみましょう。無意味だとして、[a]を取ってしまうと・・・

Jorge busca Carlos.

となります。ご存知の通り、スペイン語は非常に語順ということにおいて柔軟ですから、この同じ意味の文章を、

Carlos busca Jorge.

と書いて、あくまでも Jorge が主語だと主張することも出来るわけです。

Jorge busca Carlos.とだけ書いておくと、主語と目的語の弁別において混乱が発生します。だから Jorge busca a Carlos.と書いてはじめて、ホルヘが主語、カルロスが目的語、ということがはっきりする訳です。ならば目的語が「もの」ならばどうだろうか？

Jorge busca la silla. 《ホルヘはその椅子を探す。》

もうお分かりですね、普通は椅子は主語にはならないから、これは[...a]をつけなくても、目的語だということがわかるのです。ですから《人が目的語の場合につく[a]》は、《主語となりそのような存在 = 通常人間 = をあくまでも目的語として指定する機能をもつもの》であり、無意味な存在ではないのです。

A-12-2. スペイン語は語順がかなり自由なので、a をつけないと、名詞の位置だけではそれが主語なのか目的語なのか不明になります。José conoce a María というとき、a があるので María が目的語、a がない José が主語であることがわかります。一方、それが「物」ならば、たとえば José conoce Madrid.という文で考えると、Madrid が意味的に主語にはなれないので、a は不要になります。ラテン語から発達したスペイン語はかなり早い時期からこの直接目的語の a をつけるようになりました。ラテン語では名詞の語尾が変化して主語であるか目的語であるかが明示されていました。スペイン語になってそれが消失したので、この前置詞 a が機能的にそれを補ったのです。

5. 前置詞 + 人称代名詞

Q-14. 「その他は主語人称代名詞と同じ」とありますが、その他の語は conmigo のように合成しない、ということですか？

A-14. yo, tú 以外の人称代名詞が前置詞の後に使われるときは mí, ti のような特別の形をとらず、主語人称代名詞と同じ形になる、ということです。もちろん合成もしません。con の場合は、con él, con ella, con usted, con nosotros, con nosotras, con vosotros, con vosotras, con ellos, con ellas, con ustedes となります。

Q-15. conmigo, contigo について、この二つはなぜ "con mí" や "con ti" とならないのですか？

A-15. たしかに、go がなければ con él, con usted などと同じような形になってわかりやすいのですが、実はこの go は con と同じ語源なのです。ラテン語で cum という形の前置詞でした。con...go という形で強調されたようです。古いスペイン語(中世)では、さらに nosotros, vosotros でも conosco, convosco という形がありましたが、これは使われなくなりました。それに対して conmigo と contigo はよく使われるので、現代スペイン語まで残ったのだと思います。

6 . gustar 型動詞

Q-16. gustar の意味はなぜ日本語や英語とは逆の向きになっているのか。

A-16. スペイン語の gustar は古いスペイン語(中世スペイン語)では、英語の like のように他動詞として用いられていましたが、次第にその目的語が主語のような役目を果たすようになり、一方、従来の主語が間接目的語に変わりました。gustar の主語が動詞のふつうは後ろにあるのは、昔は直接目的語であった名残りだと考えられます。

Q-17. gustar, interesar 以外にどんな動詞がこれに相当しますか？ 単語を見て見分ける方法はありますか？

A-17. 他に ,agradar(自動詞)「気に入る ,喜ばしい」,encantar(他動詞)「魅了する」,fastidiar (他動詞)「うんざりさせる」,extrañar (他動詞)「奇異に感じさせる」などの「感情」を示す動詞や ,convenir, venir(どちらも自動詞で「都合がよい」という意味)があります。¿Mañana te viene bien? 「明日の都合はどう？」 単語の形から見分ける方法はありません。

Q-18. gustar 型動詞の用法の所ですが、間接目的語しか前に来ないのですか？

A-18. 直接目的語の代名詞も(活用する)動詞の前におきます。例 interesar (他動詞) :Esta película me interesa mucho. この文の中の me は直接目的語の代名詞です。

Q-19. 日本語で「猫が好きだ」という時は猫は単数形のままですが、英語やスペイン語では cats gatos のように必ず複数形になりますよね？ こういう違いはどういうところから生まれるのでしょうか？

A-19. 日本語では単数・複数の区別を普通しないので、わざわざ「猫たち」というような表現を使うことがないのでしょう。一方、英語では確かに cat のような可算名詞の場合は I like cats. というのが普通だと思います。これは the cat のように「総称」generic で使われる定冠詞は文語体の特徴だからです。例 : The cat is one of the most poorly understood of all animals. 一方、口語で複数形 cats が使われるのは具体的な複数の猫のイメージを喚起するからだだと思います。つまり、話し言葉では抽象的な概念よりも具体的な事物で示す方を好むわけです。スペイン語でも口語で可算名詞の場合、具体性を示す複数形が好まれますが、定冠詞をつけるのが普通です。いま Google で "Me gustan gatos" と "Me gustan los gatos" を検索してみると圧倒的に

後者の方が多いのです。(もちろん、この場合「特定の猫」を指していることもありますが、「総称」としての「猫」を指しているケースも多く見られます。) 一般にスペイン語では「総称」を示すときには定冠詞をつけます。次の英語との比較例をごらんください(Butt and Benjamin: A New reference grammar of modern Spanish)。Los belgas beben mucha cerveza. / Belgians (in general) drink a lot of beer.

7. 数詞 . 41 から 199 まで

Q-20. 突然、いろいろな数が言えるようになって驚いた。このようなところは英語や日本語と同じで覚えやすい。5 50, 6 60 などでもなんとなく音が似ている所など、英語と似ていると思う。ところで、0 は何と言うのでしょうか？

A-20. cero 「ゼロ」と言います。

Q-21. 100 だけ特殊で覚えにくいですが、% (percent)を連想するとよい、という解説を聞き、かなり印象に残るようになった。アメリカ、カナダなどの通貨単位であるセント(cent)は 1 ドルの 100 分の 1 である。関係あるのだろうか？

A-21. セント(cent)も、同じ語源に遡ります。スペイン語圏でも貨幣単位として centavo や céntimo が使われます。

Q-22. 3桁の数字の読み方について。たとえば 199 のとき英語だと one hundred and ninety nine だが、スペイン語だと ciento noventa y nueve となり、and と y という「と」の意味の言葉を入れる位置が違っている。

A-22. とてもよい観察です。

Q-23. 数字に性がないのは不思議な感じがする。また、50=cincuenta を cinquenta とスペルミスしそうになるが、そうすると読み方まで変わってしまうことに気づいた。(クエン ケン)

A-23. とても大事なことに気づきました。

練習

Q-1. 練習 2 (2) . cuando éramos niños...の niños は名詞ではないだろうか。名詞だったら、なぜ冠詞を使わないのだろうか？

A-1. 名詞に必ず冠詞がつくとは限りません。たとえば ser 動詞の後に身分・職業・国籍などを示す名詞が来ると、その名詞には冠詞がないのがふつうです(例 . Pedro es médico.)。これは、ser niño がひとまとまりで、1 つの動詞(述語)のような役割を果たしているからです。つまり、とくに niños を名詞として取り出して、それがどのような niños なのかを問題にしているわけではないからです。名詞に冠詞がついていないときは、このように考えてください。

Q-2. 練習 3(3). 名詞が直接/間接目的語であるときについている a,al が、代名詞を用いるときには消えてしまうのはなぜですか？

もとの文では Anoche Jorge la buscaba a Blanca.となっていますが、目的語を代名詞を用いてあらわすと Anoche Jorge la buscaba.となり、Blanca の前にあった a が消えてしまいます。

A-2. a Blanca が代名詞になったときに、つまり la になったときに a が消えてしまうのは、la 自体がすでに目的語の代名詞だから、つまり la の中に a の意味が涵みこまれているからでしょ

う。対して Blanca は主語になる形ですから ,a を前につけて目的語であることを示さないといけないわけです。ちなみに , a のあとに人称代名詞をつけるときには , ella という主格の形をつけて a ella となります。Yo la quiero a ella.(私が好きなのは彼女なんだ。)の中で la と a ella は同じ「彼女」を指しています。2 回繰り返されて強調されているのです。

Q-3. こんにちは。私は第 2 外国語はフランス語なのですが、スペイン語にも興味を持ちディメロを使って独学しています。私も質問して良いのでしょうか……。 leccion3 の練習 3 についてなのですが、4 で La madre pone el abrigo a los niños.となっています。ここで、コートを着させられるのは複数の男の子なのに、コートは el abrigo と単数になっています。これはどうしてなのでしょう？ なんとなく、一つのコートを複数の人間に着せるように私には聞こえてしまうのですが。

A-3. Dímelo の教科書を使ってスペイン語を自習していらっしゃる意欲的な方がいらっしゃることは、本当に嬉しい限りです。質問大歓迎です。単数、複数の使い方についてのご質問、以下のスペイン語と英語の例文をご覧ください。

Se quitaron el sombrero. They took off their hats.

Todos tenían novia. All had girlfriends. (one each)

tres israelíes con pasaporte alemán three Israelis with German passports

2 つめや 3 つめの例文ではっきりすると思うのですが、英語では曖昧なところをスペイン語でははっきりさせます。Se quitaron los sombreros. にすると、それぞれの人が 2 つ以上帽子をかぶっていたこととなります。また Todos tenían novias. だったら、それぞれの人がみな複数恋人をもっていたこととなります。ですから、La madre pone el abrigo a los niños. は、コートをそれぞれの子供に 1 着ずつ着せる、ということになります。los abrigos にすると、コートを 2 着も 3 着も着せることとなります。